



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会



National
Research
Foundation

第4回グローバルリサーチカウンシル (Global Research Council: GRC) 東京年次会合について

概要

平成27年(2015年)5月27~28日、[グローバルリサーチカウンシル](#)の第4回年次会合が東京で開催されました(日本学術振興会(JSPS)／南アフリカ国立研究財団(NRF)共同主催)。47ヶ国から52の学術振興機関と4の国際機関の代表者が参加し、科学上のブレークスルーに向けた研究費支援(Research Funding for Scientific Breakthrough)と研究・教育における能力構築(Building Research and Education Capacity)という2つの議題に沿って研究支援を取り巻く課題を共有し、学術振興機関が果たしていくべき役割について議論を交わしました。また、5月26日にはサイドイベントとして「科学上のブレークスルーに関するグローバルシンポジウム」と「アフリカの研究・教育の能力構築に関するラウンドテーブル」が開催されました。

安倍晋三内閣総理大臣からのビデオ・メッセージ(概要)

会議冒頭にて[安倍晋三内閣総理大臣からのビデオ・メッセージ](#)が寄せられました。安倍総理は、イノベーションが社会にもたらすインパクトについて触れ、科学の分野では研究者独自の自由な発想に基づく、独創的で多様な研究がイノベーションを生み出すと述べました。また、基礎研究をしっかりと支援し、未来へ投資することへの重要性を強調しました。さらに、アフリカの将来的な発展に期待を寄せ、研究者交流や共同研究を通じて日-アフリカ間の科学の絆を深めていきたいという今後の展望を表明しました。

2つの成果文書の採択

本年次会合では「科学上のブレークスルーの支援のための原則に関する宣言」及び「研究・教育の能力構築のためのアプローチに関する宣言」の2つの成果文書が採択されました。これらの文書は、各国の学術振興に関する議論・政策・プログラム決定に大きな影響を及ぼすものです。2つの成果文書の概要は以下の通りです。

[「科学上のブレークスルーの支援のための原則に関する宣言」\(概要\)](#)

強固で広がりを持つ学術研究・基礎研究の基盤が、将来のブレークスルー及びイノベーションの源泉であり、科学上のブレークスルーのためには長期的な投資と、持続可能で安定的かつ多様な研究費支援の確保が必要です。

本共通認識に基づき、宣言文では1. 研究における自由・柔軟性・リスク負担の保証、2. 研究費支援の多様性の確保、3. 効果的な審査プロセスの構築と研究に対する適切な評価、4. 政府・学

界・産業界・国民といった関係者との連携、5. ブレークスルーにつながる科学を支援するための国際的な連携という研究費支援のための5つの原則が示されました。

「研究・教育の能力構築のためのアプローチに関する宣言」(概要)

研究・教育の能力構築はグローバルな研究システムにおける全ての関係者にとって重要な課題です。宣言の中では、研究ニーズを特定し、研究を委託・実施(研究上の連携を含む)し、研究成果を伝達し、研究成果が現場や政策レベルで活用されることを保証するような国レベルのシステム開発が必要であることが確認されました。

また、宣言では世界の研究支援機関が、個人と組織両方の能力を強化するためのアクションを取り、国・地域・グローバルなシステムの中で研究・教育の能力強化に向けて積極的に活動することが求められています。具体的には「協力・パートナーシップ・ネットワークの構築」「研究管理に関するグッドプラクティスの共有」「研究・教育能力の持続可能性を確保するための「経路」全体にわたる支援」といったアプローチをとり、研究支援機関によるシンポジウムの開催、職員交流プログラムや組織的カップリングの実践、さらにはコミュニケーション研究の推進といった活動を行っていくことがGRC参加者間で共有されました。

GRCの今後

平成24年(2012年)に設立されたGRCは今年で4年目を迎えました。GRCの国際ネットワークをより強固なものにし、グローバルな研究支援環境を整備していくためには、学術振興機関同士の継続的な対話が重要です。今回の2日にわたる東京での年次会合は組織間の対話のみならず、専門家レベル、個人レベルでの絆を深める好機となりました。

平成28年(2016年)の年次会合は英国研究会議(RCUK)、インド科学技術研究委員会(SERB)による共同主催でニューデリーにて開催されます。第4回年次会合で日本学術振興会の安西祐一郎理事長がGRC理事会の議長に選出され、今後も日本学術振興会がGRCコミュニティにおいて重要な役割を果たしていくことが期待されています。

参加者（47ヶ国 52機関、4国際機関（順不同）

【北中南米】

米 NSF, カナダ NSERC, メキシコ CONACYT, ブラジル FAPESP, アルゼンチン CONICET, ペルー CONCYTEC

【ヨーロッパ】

英 RCUK, 仏 ANR, CNRS, 独 DFG, Leibniz Association, 伊 CNR, 露 RFBR, 蘭 NWO, ベルギー FWO, ルクセンブルク FNR, スイス SNSF, スペイン CSIC, ポルトガル FCT, アイルランド SFI, デンマーク DNRF, ノルウェー RCN, オーストリア FWF, ハンガリー NKFIH, ポーランド FNP, イスラエル ISF

【アジア・太平洋】

日本 JSPS, JST, 中国 CAS, NSFC, 韓国 NRF, インド SERB, シンガポール NRF, インドネシア LIPI, マレーシア NSRC, タイ TRF, NRCT, オーストラリア ARC, ニュージーランド MBIE

【中東・アフリカ】

南アフリカ NRF, ケニア NACOSTI, エチオピア AAU, ベナン CBRST, マラウイ NCST, モザンビーク FNI, ナミビア NCRST, ウガンダ UNCST, ジンバブエ RCZ, エジプト MSR, クウェート KFAS, オマーン TRC, カタール QNRF

【国際機関】

Science Europe, 欧州委員会 EC, 欧州研究会議 ERC, 第三世界科学アカデミー TWAS

第4回グローバルリサーチカウンシル年次会合プログラム

2015年5月27日(水)

8:30-9:30	開会の辞 安倍内閣総理大臣ビデオ・メッセージ
9:40-13:00	第1部：科学上のブレークスルーに向けた研究費支援
9:55-10:05	基調講演 I: グローバルシンポジウムにおける議論の報告 <i>米国国立科学財団(NSF)長官 France Cordova</i>
10:05-10:15	基調講演 II: 各地域会合の議論の報告 <i>シンガポール国立研究財団(NRF) CEO Teck Seng Low</i>
10:15-10:25	基調講演 III: 各地域会合の議論の報告 <i>イスラエル科学財団(ISF)学術評議会 Chairman of the Academic Board Benjamin Geiger</i>
10:45-12:00	全体討議 討議及び「科学上のブレークスルーに関する宣言」採択
12:00-13:00	分科会
13:00-14:00	昼食
14:00-17:20	第2部：研究・教育における能力構築
14:05-14:20	基調講演 IV: GRC アフリカサミット及びラウンドテーブルにおける議論の報告 <i>ナミビア国家研究科学技術委員会(NCRST) CEO Eino Mvula</i> <i>国連大学 ESDA/NGR Project Coordinator Emmanuel Mutisya</i>
14:20-14:30	基調講演 V: 米州地域会合における議論の報告 <i>ペルー研究評議会(CONCYTEC) President Gisella Orjeda</i>
14:30-14:40	基調講演 VI: 中東・北アフリカ地域会合における議論の報告 <i>クウェート科学振興財団(KFAS) Deputy Director General Ahmad Bishara</i>
14:40-15:50	全体討議及び「研究・教育の能力構築に関する宣言」の採択
16:20-17:20	分科会
18:30-21:30	公式晩餐会

2015年5月28日(木)

9:00-9:30	第3部： 学術論文のオープン・アクセス 進捗報告
	GRC メンバーの OA の取組報告 <i>カナダ自然科学工学研究会議 (NSERC) President Mario Pinto</i> 「Unlocking the future」ワークショップの報告 <i>英国研究会議 (RCUK) Chair Rick Rylance</i> 2017 年のシンポジウムの提案 <i>オランダ科学研究機構 (NWO) 理事長 Joseph Engelen</i>
9:30-10:50	総括討議
9:30-9:45	第1部の分科会での議論の報告
9:45-10:10	第1部のフォローアップ活動についての討議及び決定
10:10-10:25	第2部の分科会での議論の報告
10:25-10:50	第2部のフォローアップ活動についての討議及び決定
11:10-12:20	第4部： GRC の運営及び今後の方向性
11:10-11:20	運営理事会の議論の報告 <i>運営理事会議長・中国科学院(CAS) 院長 Chunli Bai</i>
11:20-11:30	GRC 作業部会における議論の報告 <i>ドイツ研究振興協会 (DFG) 国際部長 Jörg Schneider</i>
12:00-12:20	2016 年度年次会合
12:00-12:15	2016 年年次会合の紹介 <i>2016 年年次会合主催機関</i> <i>インド科学技術研究委員会 (SERB) Secretary Tavarekere Kallian Chandrashekar</i> <i>英国研究会議 (RCUK) Chair Rick Rylance</i>
12:20-12:45	特別セッション： 関連会議主催者からの紹介
12:20-12:30	<i>STS フォーラム 理事長 尾身 幸次</i>
12:30-12:40	<i>世界経済フォーラム Managing Director Mr. William Lee Howell</i>
12:45-13:00	閉会の辞
	<i>日本学術振興会 理事長 安西祐一郎</i> <i>南アフリカ国立研究財団 Acting CEO Beverley Damonse</i>